



重要文化財 舍利容器 一式 な お はい じ 縄生廃寺（三重県）出土 奈良時代 文化庁蔵

舍利容器とは、仏舎利（仏陀の骨）を入れる容器のことをいいます。塔の中心の礎石の舍利孔（舍利容器を安置するあな）から出土しました。ろくろで成形した滑石製の外容器の中に鉛ガラス製の内容器を入れ、唐三彩の小碗をふたにして被せてありました。

縄生廃寺は三重県北東部の朝日丘陵上に、7世紀後半から8世紀初頭に創建され、9世紀中頃以降に廃絶したと考えられています。

縄生廃寺からは、この舍利容器の他に、天武天皇とゆかりのある川原寺と同型式の軒丸瓦の出土が見られることなどから、壬申の乱との関連が推測されています。
(特別展「壬申の乱」にて展示)

特別展

壬申の乱

2021.3.26(金)～5.16(日)

壬申の乱は、天武元年（672）に天智天皇（626～672）の皇子・大友皇子（648～672）に対し、天智の弟で大友の叔父にあたる大海人皇子（？～686）が兵を挙げた、日本の古代史上最大の戦いと言われています。

この戦いに勝利した大海人皇子は天武天皇となり、律令制度の整備や中央集権化を推し進めました。本展では、壬申の乱の経緯をたどるとともに、大海人皇子のもとで戦った美濃の豪族たちや、律令制度が整備されていく中での美濃のようすにも迫ります。



天武天皇像 小倉遊亀筆
昭和58年（1983） 薬師寺（奈良県）蔵 ©飛鳥園

天智10年（671）10月、近江・大津京にて病身の天智天皇から次期天皇を託された大海人皇子は固辞し、すぐに出家して京から遠く離れた大和・吉野へ向かいます。『日本書紀』では、ある人はこの様子を「虎著翼放之」（虎に翼を着けてこれを放つ）と言ったとあります。この年の12月、天智天皇は崩御し、大友皇子が近江朝廷の中心となりました。

天武元年（672）6月、自身を滅ぼさんとする近江朝廷の動きを察知した大海人皇子は、ひそかに吉野を脱出し、伊賀国・伊勢国を経由して美濃国へ入ります。大海人皇子の経済基盤があり、村国男依ら大海人皇子に仕えた舎人（天皇ら皇族の身辺で警護・雑事を行う者）の本拠地があった美濃地域や、脱出を援助したと思われる伊賀・伊勢地域では、大海人ゆかりの川原寺（現在の奈良県明日香村）と同形式の瓦が出土しており、乱後の論功行賞により寺院の造立などがあったと考えられています。



複弁蓮華文軒丸瓦・重弧文軒平瓦（展示は同范品）
川原寺（奈良県）出土 白鳳時代 奈良文化財研究所蔵



三尊佛 川原寺裏山遺跡（奈良県）出土
白鳳時代 明日香村教育委員会蔵

美濃に入った大海人皇子は、味方をつけた美濃・尾張ら東国の大軍を近江・大和へ向けて派遣します。

大和では大海人皇子に呼応した大伴馬来田（？～683）・吹負（？～683）兄弟が挙兵し、美濃からの援軍とともに大和を制圧し、難波方面に進出しました。写真の鉄鎌が出土した奈良県明日香村の石神遺跡付近は、大和における序盤

の舞台となった、「小堀田 兵庫」（武器庫）と考えられています。



鉄鎗
石神遺跡（奈良県）
出土
白鳳時代
奈良文化財研究所
蔵

近江国内で連戦連勝の大海上軍は、ついに大津京手前の勢多（瀬田）橋での決戦に勝ちました。翌日、大友皇子は山前で自害し、乱は終りました。乱に勝利した大海人皇子は、飛鳥淨御原宮を造り、都を大津から飛鳥へ遷し、翌年天皇の位に就きました。

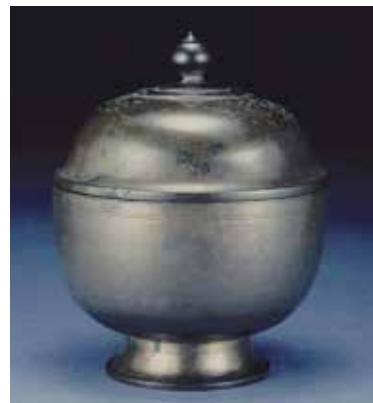


唐橋遺跡第一橋脚遺構 唐橋遺跡（滋賀県）出土
白鳳時代 滋賀県立琵琶湖博物館提供
(展覧会では橋脚に使われた基礎材を展示)

壬申の乱で大海人皇子のもと活躍した豪族たちは、乱後の論功行賞を受けました。現在の岐阜市・各務原市・関市・本巣市など美濃地方には、川原寺式の瓦を持つ寺院が山田寺をはじめ多数みられ、美濃の豪族たちが大海人皇子へ協力したことがうかがえます。

乱における最大の功労者と評される村国男依を輩出し、のちに中央政界へも進出した村国氏と、在地で郡司として根付いた身毛氏を中心に、乱後の美濃の豪族たちを紹介します。

天武天皇が取り組んだ律令制度の整備事業は天武崩御後にも引き継がれ、飛鳥淨御原令（689年）を経て、大宝元年（701）大宝律令の制定



重要文化財 舍利容器
奈良時代 山田寺（各務原市）蔵

をもって完成了。

令制のもと、美濃国には不破関が設置され、伊勢国（鈴鹿関）、越前国（愛發関）とともに關国として、都の反乱分子が東国へ逃れる「第2の壬申の乱」を防ぐ重要な役割を担いました。



地鎮に使われた和同開珎
不破関跡（関ヶ原町）出土
白鳳時代
不破関資料館蔵

木簡は語る

本展では、7～8世紀の美濃に関する木簡の紹介を行います。木簡とは、墨などで文字や絵が記された、出土した木製品をいいます。木簡は当時書かれた情報をそのままの状態で知ることができます。非常に重要な資料です。例えば、右の木簡からは、大宝律令で国一郡一里とされていた地方の行政区画が、丁丑年（677）の時点では国一評一五十戸と表記していたことや、「美濃」の表記を「三野」としていたことがわかります。



木簡「丁丑年十二月次米三野国／(右下)加尔評久々利五十戸人／(左下)物部 古麻里」(赤外線写真)
飛鳥池遺跡(奈良県)出土 天武6年(677)12月
奈良文化財研究所蔵

※会期中、一部展示替えを行います。

企画展

ちょっと昔の道具たち

2020.11.28(土)～2021.3.7(日)

平成8年度にはじまり、今年で25回目の開催を迎える展覧会。小学校3年生の社会科学習と連携している点も特徴です。「進歩する展覧会」の位置づけのもと、引率の先生方や来館者の声を活かし、毎年改良を加えています。

令和2年度は、「まちかどコーナー」に昭和40年代のおもちゃ展示を新設しました。江戸時代以前からあるメンコや麻などにマンガやアニメのキャラクターが描かれるようになり、家の中で遊べるゲーム盤が人気でした。現在でも人気のあるおもちゃもあり、展示を見ながらご家族で話が弾んでいる様子をお見掛けします。



また、今年度の新たな取り組みとして、道具の解説動画を作成しました。展示室内の解説パネルに表示されているQRコードを御自身のスマートフォンなどで読み取っていただくと、歴史博物館ホームページに掲載されている解説動画をご覧いただけます（ホームページ上の解説動画は、ご自宅や学校でも視聴可能です）。



小学校3年生の学習向けですが、大人の方にも新しい発見があるはずです。道具が使われていた場面を映画のセットのように再現するジオラマ展示は今年も健在ですので、動画とあわせてお楽しみいただけます。



家の中コーナー (水場) ※道具の使い方は動画で紹介

なお、例年好評いただいているボランティア活動（ものしり博士）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年度は活動を行いません。一般来館者向けの道具を実際に触ってもらえる体験や、昔のおもちゃ作り教室等の各種ワークショップも実施を見送りました。

制約の多い中での開催となりましたが、中学生以下の方対象の「くじ引き体験」を日替わりプレゼント配布に変更したり、触れることができなくても道具の使い方や動かし方が分かるコンテンツを作成するなど、内容を工夫しながら、来館者のみなさまに楽しんでいただける展覧会を目指しています。

【展覧会独自の取り組み】

- ・学校団体見学時における一般来館者の入場制限（学校団体により制限人数に達するため）。
- ・道具体験は予約のある学校団体のみ実施。利用時にはこまめな消毒をしています。



駄玩具を販売する「なんでも屋商店」※の入口でも、手指の消毒にご協力いただいています。
※土日祝日と年末年始(12/28～1/3)に開店

加藤栄三・東一記念美術館

開館30周年ぎふしん記念財団助成事業

加藤栄三・東一記念美術館名品展

2021.4.20(火)～7.25(日)

加藤栄三・東一記念美術館は、平成3年5月11日、鶴飼開きと同じ日にオープンし、今年で30年を迎えます。あわせて、今年は栄三生誕115年・東一生誕105年の節目の年にもあたり、この二つを記念して、ご遺族を始め多くの方々よりご寄贈いただいた加藤栄三・東一両画伯の名作を紹介する展覧会を開催します。

また、令和2年度、公益財団法人ぎふしん記念財団から助成を受けることができ、これまで修理が必要であった掛軸や劣化のため未公開の下絵、素描8点余りの修理、表装が完了し、展示が可能になりました。この記念の年に、これらの名品を初披露します。



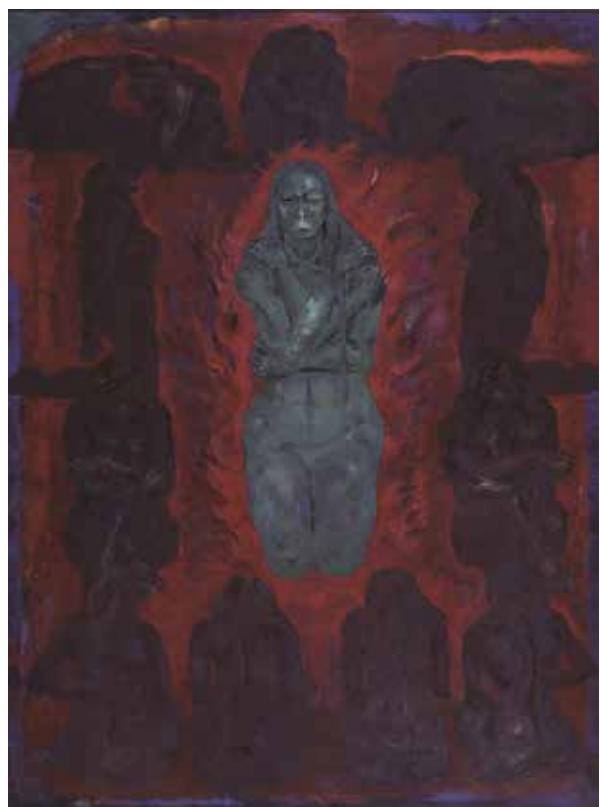
フィレンツェの夜明け

加藤 栄三

加えて、昭和23年（1948）日本画壇の旧弊を打破すべく「創造美術」結成に栄三とともに尽力した日本画壇を代表する画家、山本丘人の作品を合わせてご紹介します。これは昨年開催した「生誕120年 日本画家 山本丘人展」において、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため会期が変更となり展示出来なかった作品をご

遺族のご厚意によって展示するものです。両画伯の作品を、所縁の画家と合わせてご覧いただくことで、より加藤栄三・東一両画伯をより深く知る機会となることでしょう。

この機会に二人の新しい魅力を鑑賞してください。



女人

加藤 東一

開館30周年を迎えるにあたり、多くの皆様に支えられ運営してまいりました。その皆様に感謝の心を込め、これまでとは違う美術館の新たな魅力を紹介します。



「月響（素描）」（部分）

加藤 栄三

館蔵資料紹介



刀 銘 濃州関住兼定作

室町時代後期 刃長 62.3 cm 反り 19.7 mm



【銘部分拡大】

美濃を代表する刀工である、二代兼定の作品です。機能性を重視した刀を大量に生産していたことで知られる関鍛冶のなかで、兼定は美濃や尾張の武将といった権力者と交流を持ち重用されたようで、武将との合作の刀もいくつか残されています。

「兼定」の銘を用いた刀工は数代にわたって存在したようですが、もっとも有名なのは和泉守を受領した二代とされる兼定です。二代兼定は銘の「定」の字のウ冠の中を「之」の字に切ったことから、他の兼定と区別して「之定（のさだ）」と呼ばれています。この作品の「関」や「兼」などの字の特徴は「之定」と同じですが、銘の「定」の字を楷書に切っていることからみて、明応2年（1493）～6年（1497）ころの兼定初期の作と思われます。

兼定は関鍛冶の中でも比較的華やかな刃文を焼く刀工ですが、この作品でもその特徴がみられ、全盛期の作風を思わせる優品といえます。

撮像：中村 慧



加藤東一作「伝承」

- ・号 数 P25号 (61.0 cm × 80.4 cm)
- ・制作年 昭和57年 (1982)
- ・形 態 額装 (82.0 cm × 101.5 cm)
- ・材 料 麻紙、岩絵具

奈良二月堂のお水取りを取材し描いた作品です。加藤東一が昭和57年、第14回改組日展に本作と同じモチーフ、同じ構図の150号の作品を出品しており、おそらく、日展出品作に感動した支援者が東一に依頼して25号に縮小して描いてもらった作品と考えられます。その後、昭和58年の第15回改組日展に「火」、昭和59年の第16回改組日展に「達陀だつたん」を出品しています。この二月堂のお水取りに取材した3作品は、昭和47年にご逝去された兄：栄三の死後10年目に描いた作品であり、その死に対する鎮魂歌ともいべき「火シリーズ3部作」として、東一の画歴の中で重要な位置をしめています。

イベント後記

NHK大河ドラマ特別展 麒麟がくる 連歌イベント

連歌実作会

～現代によみがえる「ときは今」

令和2年9月18日(金)から11月3日(火・祝)にかけて当館で開催したNHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」の関連イベントとして、「連歌実作会～現代によみがえる『ときは今』」と題して、会期中の10月17日(土)に連歌会を開催しました。これは、特別展の主役である明智光秀が連歌を嗜好していたことに因るもので、展覧会場においても、光秀にゆかりのある連歌に関する作品が展示されていました。

帝塚山学院大学名誉教授 鶴崎裕雄さんに宗匠としてお越し頂き、執筆は京都女子大学非常勤講師 大村敦子さんにつとめて頂きました。また、連衆として、小島頓宮法楽連歌会・郡上連歌会のみなさんにご参加頂きました。

特別展にもご協力頂きました安藤武彦さんに
発句を、ホスト役として、当館名誉館長でNHK
大河ドラマ「麒麟がくる」の時代考証をされ

ている静岡大学名誉教授 小和田哲男さんから脇句を事前に頂戴し、会場では、受講者へ多くご参加頂くよう呼び掛けはじめました。連歌を気軽に体験して頂くため、式目は初折六句目以降からはゆるやかなものとなりました。



連衆には壇上と観覧席に分かれて着席頂きました。画像は宗匠により付句の解説がおこなわれている様子。連歌はスクリーンに映し出され、選考されて付句が決まると、パソコンに入力されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながらの開催となったことから、通常の連歌会とは様相が変わったものとなり、四十四句を巻き上げる予定は中途におわったものの、連衆の方々をはじめ、会場からも積極的に付句がおこなわれ、盛況のうちに幕を閉じました。

連衆の方々、ならびにご参加頂きました皆様には、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

初句	ときは今秋風ぞふく稻葉山
脇	つはものしのび鳴きまさる虫
第三	またれてや千里を照らす月出でて
四	こぼるる萩も水面たゆたふ
五	道遠く由ある村を訪ぬらむ
六	背（せな）に負ふ荷に積もる白雪
七	枯野にも若人の夢みちみつる
八	恋しき君を送る明け方
初折裏	
一	相見るが適はぬとても強くあれ
二	濡るるも乾（ひ）るも美しき袖
三	波風に神の功もあらはれて
四	虹の彼方にいざ船出せむ
五	絵手紙に添へるひとこと夏見舞
六	むらさきだちて桐の咲く庭
七	佇めば法のみ声の聞こえ来る
八	健やかなれとながらふ命
九	争ひのあらぬ世の中なればこそ
十	城の上（へ）の月やすらかに冴ゆ
十一	弓弦（ゆんづる）のごとく張りたる胸の内
十二	舞ふも踊るも蝶よひらひら
十三	さく花も散る花もよし麒麟来る
十四	霞む先にはあはれる寺
名残折表	
一	一 残ども身の左右振るはなぜ
二	二 雨のをはりはおとづれもせず

宗匠

鶴嶋裕雄

郁子 亞樹 一希
敦子 春美 千恵
純女 やよひ
成子 富美子
雅春 武彦
正水 純一
希正

武彦哲男善帆春美千惠純一正水裕雄

博物館ニュース

麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館が終了

岐阜市歴史博物館 2F 総合展示室で開催されていた、「麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館」が2021年2月14日（日）に終了いたしました。それに伴い博物館への入館方法も変更となります。これまで、入場チケットの販売は博物館外のチケットブースで行っておりましたが、大河ドラマ館終了後は、博物館内エントランスホールの受付にて販売となります。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、入館時の手指消毒・体温計測・マスク着用については引き続きご協力をお願い申し上げます。

2F 総合展示室の再開につきましては、岐阜市歴史博物館のホームページ等に掲載しますのでご確認ください。

« Facebook ページ »

<https://www.facebook.com/gifushi.rekihaku/>



« ホームページ »

<https://www.rekihaku.gifu.jp/>



利用の御案内

■ 開館時間 午前9時～午後5時

(歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館の入館は午後4時30分まで)

※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

■ 休館日 毎週月曜日と祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月3日)

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。

■ 観覧料 ◎歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館

歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館（団体は20人以上）

高校生以上……310円（団体250円） 小中学生……150円（団体90円）

両館共通で観覧される場合

高校生以上……520円（団体410円） 小中学生……260円（団体150円）

◎下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。

①岐阜市在住の70歳以上の人（特別展を除く）

②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、
及びその介護者1人

③家庭の日（毎月第3日曜日）に入館する中学生以下の方（特別展を除く）

④⑤に同伴する家族（高校生以上）の方（特別展を除く）

⑤岐阜市内の小中学生（特別展を除く）

◎原三溪記念室は、無料でご観覧いただけます。

■ 交通案内 ◎歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館

JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。

岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

お車でおこしの際は、岐阜公園駐車場をご利用ください。

詳しくは岐阜市歴史博物館ホームページをご覧ください

◎原三溪記念室

岐阜バス西郡三田洞線 下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分
岐阜バス西郡三田洞線 もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車、徒歩すぐ

博物館だより No.107 2021. 2

編集・発行 岐阜市歴史博物館	〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1	☎058(265)0010
(分館) 加藤栄三・東一記念美術館	〒500-8003 岐阜市大宮町1-46	☎058(264)6410
(分室) 原三溪記念室	〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階	☎058(270)1080